

2010年度

人	文	演	習	履	修	案	内
---	---	---	---	---	---	---	---

関西学院大学商学部

人文演習履修選択に際して

商学部では、第2学年度生以上を対象として、「人文演習」を開講しています。この意図は、第1学年度の「商学演習」に引き続いて、学問をより広い視野の中でとらえ、教員と共にゼミナール形式で学ぶ機会を提供しようとすることにあります。

人文演習は、それぞれのテーマに応じて担当教員の指導のもとに運営されます。クラスは自由に選択できますが、担当教員の数に限りがあり、かつ少人数教育の観点から人数に一定の制限が設けられています。したがって、必ずしも志望者全員を受け入れられるとは限らないので注意して下さい。

人文演習の申し込みはWebにより行います。申込方法は、『履修登録・成績照会操作マニュアル』を教学Webサービス (<https://webinfo.kwansei.ac.jp/>) よりダウンロードし熟読してください。

■2010年度 人文演習履修選択要項

1. 申込資格：第2学年度生以上
2. 申込期間：2010年4月1日（木）～4月4日（日）11：30まで
3. 申込方法：Webによる申し込み
4. 演習定員：各25名
5. 発表：2010年4月5日（月）8：50 Webおよび商学部掲示板による発表

■2010年度 人文演習担当者一覧

（50音順）

担 当 者	研究テーマ	開講時限	2010年度授業担当科目（人文演習以外）
伊藤 正範	〈物語〉と〈商品〉	木4 通年	英語リーディングⅡ 英語コミュニケーションⅡ
梅咲 敦子	コンピュータを利用した 英語研究	月3 通年	英語リーディングⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英会話（特）
大貫 隆史	キーワードで学ぶイギリス 映画・小説	水3 通年	英語リーディングⅠ・Ⅱ
嶋村 誠	英語文化圏の背景	火3 通年	英語コミュニケーションⅡ 英作文（特）
禪野 美帆	レポート作成の技術	春学期 週2回 (火3・火4)	スペイン語Ⅲ 教養基礎D（異文化）
田中 裕幸	英文法を科学する	金2 通年	英語リーディングⅠ 教養基礎D（異文化）
藤野 真子	近代都市としての上海と 文化経済	火2 通年	中国語Ⅲ・Ⅳ 教養基礎D（異文化）
森本 達夫	悲劇、喜劇、ドラマ	月3 通年	フランス語読解ⅠA・ⅠB フランス語読解ⅡA・ⅡB

担 当 者	伊藤 正範
■研究テーマ 〈物語〉と〈商品〉 ■講義目的 米アップル社がマッキントッシュをデビューさせた 1984 年、あるテレビ CM が放映されました。スキンヘッドの人々が整然と座っている部屋に一人の女性が走り込んでくると、彼らが見つめているモニターにハンマーを投げ込む、というものです。これがどんな意味を持っているのかはさておき、市場で流通する商品が、背後に何らかの〈物語〉を抱えていたり、あるいは意図的に付与されていたりすることというのは少なからずあります。その〈物語〉が消費者の層を決定したり、商品の売れ行きを左右したりすることもあるでしょう。この演習ではまず〈物語〉とは何かについて、小説、おとぎ話、テレビドラマ、映画、漫画、落語などの多様な素材を取り上げながら、基礎的な学習をしていきます。その後、実際の〈商品〉を題材としながら、その背後にある〈物語〉を発見・分析していきます。 ■各回ごとの授業内容 春学期は実際の小説、おとぎ話、テレビドラマ、映画、漫画、落語を取り上げながら、主に〈物語〉の基礎について学びます。秋学期はその知識を援用しながら〈商品〉の背後にある〈物語〉を分析していきます。具体的な進行については初回の授業において指示します。 ■授業方法 2週を1セットとし、あらかじめ各セットの担当グループを決めておきます。担当グループは1週目に導入として実際の作品や商品を他の受講生に紹介し、2週目にそれに関する具体的なプレゼンテーションを行います。最後はディスカッションを通して全体の意見交換を図るという流れになります。 ■教科書・参考文献 参考文献：中村捷（編）『人文科学ハンドブックスキルと技法』（東北大学出版会、2005）。 ■成績評価方法・基準 出席状況、授業時の発表、年度末のレポート（必須）などを総合する。 ■準備学習等についての具体的な指示および他の科目との関連 担当者には発表に当たって入念な準備が求められます。	

担 当 者	梅咲 敦子
■研究テーマ コンピュータを利用した英語研究 ■講義目的 実際に使用された英語をコンピュータ検索可能な状態にした大量の資料（コーパス）を利用して、さまざまなビジネスの状況で使用される英語を取り上げて、その特徴を知る。同時に、人文・社会科学分野におけるデータに基づいた研究（実証的研究）手法を会得し、専門分野の研究に活かせるようになることを目的とする。 ■各回ごとの授業内容 コンピュータ・コーパスを利用して、発信型ビジネス英語習得のための訓練を行うと同時に、英語の特徴 1 年間でビジネス英語に関する研究テーマの発掘からデータ収集と分析および考察に至る過程とペーパー作成までを扱う。 【講義とコンピュータ実習のテーマ】 (1) コンピュータを利用した英語学習 (2-3 回) (2) ビジネスとビジネス研究に必要な英語とは何か (1-2 回) (3) コンピュータ・コーパスを活かした基礎的なビジネスレター作成 (1-2 回) (4) 広告英語、ビジネス英会話、ビジネス分野の学術論文英語 (3-4 回) 【ビジネス英語研究のための基本的な方法】 (5) 口頭発表とペーパー作成方法の理解 (1-3 回) (6) 研究テーマの決定 (1-2 回) (7) 資料収集方法の理解と実践 (3-4 回) (8) 収集したデータの解析方法の検討と実践 (3-4 回) (9) 解析データの提示方法の検討と実践 (3-4 回) (10) 解析データの考察（理論化）の検討と提示 (3-4 回) (11) 結論の検討と提示 (1-2 回) (12) 口頭発表とミニ・ペーパー作成 (2-3 回) 前期は主としてコンピュータを利用したビジネス分野の英語学習と研究のデータ収集法の検討までを扱い、後期にはコンピュータを利用したビジネスを想定した英語発信の実践的課題に取り組むとともに、主として収集したデータの解析や提示方法の検討、理論化の方法を考える。 ■授業方法 講義、コンピュータを利用した実習、ディスカッション、受講者によるプレゼンテーションを組み合わせた授業を行う。 ■教科書・参考文献 教科書：プリント配布 参考文献：授業中に指示する ■成績評価方法・基準 授業への積極的参加、授業中のプレゼンテーション、学年末レポートを総合的に判断して評価する。 ■準備学習等についての具体的な指示および他の科目との関連 1 年間でビジネス英語に関するミニ・ペーパーをひとつ作成するので、各段階で必要な資料収集や活動をグループや個人で積極的に行うこと。尚、コンピュータを使用するので、その基本操作と基礎的な Word による文書作成はできるものとして授業を進める。	

担 当 者	大 貫 隆 史
■研究テーマ キーワードで学ぶイギリス映画・小説 ■講義目的 イギリスの映画や（特に短編）小説を、いくつかのキーワードを軸に解釈する。あわせて、20 世紀（特にその後半）のイギリス文化の概略も学ぶ。 ■各回ごとの授業内容 キーワードを軸に授業を進める。映画や小説についての解釈や、必要に応じて文献解題を行う。参加者の興味に応じて、解釈の対象となる映画・小説作品は決める（作品候補はこちらで用意するが、独自に選んでも構わない）。作品は原則として 20 世紀のものを扱う。基本的に翻訳を用いて授業を進めるが、参加者の希望があれば、英語の作品・文献も取りあげる。 ■授業方法 個人ないしはグループで、報告を行う。 ■教科書・参考文献 教科書：特に指定しない。 参考文献：板倉巖一郎、スーザン・K・バートン、小野原教子『映画でわかるイギリス文化入門』（松柏社、2008 年）、阿部公彦編『しみじみ読むイギリス・アイルランド文学』（松柏社、2007 年）、レイモンド・ウィリアムズ『完訳キーワード辞典』（平凡社、2002 年） ■成績評価方法・基準 課題および授業貢献度で評価する。 ■準備学習等についての具体的な指示および他の科目との関連 イギリス文化にかかわる専門的知識は、事前の（履修前の）段階では必要ない。ただし、継続的な参加、授業外での報告準備時間が必要となる。	

■研究テーマ

英語文化圏の背景

■講義目的

英語文化圏の背景について具体的に学ぶ。日本語文化圏で育った人なら、「借りはよいよい返しはこわい」という見出しが「通りゃんせ」を下敷きになっていることにすぐ気づく。しかし、英語の新聞・雑誌に出てくる、英語文化を背景にした表現は見逃しやすいので、実例に基づいて、よく下敷きにされる表現を取り上げながら、広く英語の文化遺産に対する興味を誘発したい。年間を通してかなりの量の英文を読む訓練にもなるであろう。

■各回ごとの授業内容

英語文化圏の背景と英語表現との関連性や、それらについての学び方・調べ方の基本について講義したのち、資料を受講生に割り当てる。受講生は、英語文化を背景にした表現の下敷きとしてよく用いられる事項や、関連する英語表現の使われ方について、グループや個人で調べた結果を順番に口頭発表する。扱う内容は、英語の新聞・雑誌から採取したもじり・言葉遊び等の実例、および、下敷きとして用いられることの多い、聖書、シェイクスピア、神話（ギリシャ・ローマ、北欧など）、寓話・童話（イソップ、アンデルセン、グリムなど）、マザー・グース、中世騎士物語、バラッド、詩、歌、子供の遊び、ルイス・キャロルのアリス、諺、迷信、キャッチ・フレーズ、広告、慣習など、広範囲な英語の文化遺産に及ぶ。次第に受講生自身で実例を発見する楽しみを味わえるようになってもらいたいと願っている。なお、米国で収集した資料・写真等も利用して、英語文化の一端を目で見る機会も交えたい。

■授業方法

配布する資料に基づき個人発表、グループ発表を行い、受講者から発表者への質疑応答や討論のかたちで進めるが、必要に応じて講義形式も取り入れる。

■教科書・参考文献

教科書：適宜プリントを配布する。図書は主として図書館のものを利用する。

参考文献：年度はじめの授業中に指示する。

■成績評価方法・基準

口頭発表、授業への積極的参加、出席状況、レポート等により総合的に評価する。

■準備学習等についての具体的な指示および他の科目との関連

かなりの量の英文を読むことになるので、英語の母語話者が新聞・雑誌を手にするときの楽しみ方に一步でも近づくための努力を惜しまない、自主的かつ積極的な受講生を歓迎する。

担 当 者	禪野 美帆
■研究テーマ レポート作成の技術 ■講義目的 この演習では、大学生としての情報収集、考察、発表の技法の基礎を実践的に学ぶ。 ■各回ごとの授業内容 1. 文献・情報検索 2. バランスのとれた文章 3. 説得力のある筋立て 4. レジューメ作成 5. 口頭発表 6. プレゼンテーションソフトを使用した発表 7. レポート作成 *注意 2010 年度は前期のみ開講、2 コマ連続である。 ■授業方法 上記の点について、2 回から 3 回の授業を使い、講師が見本を示した後、学生それぞれが実際に行い、数度の添削や助言を受ける。また学生同士で互いの長所や改善点を述べ、よりよいものにしていく。 ■教科書・参考文献 教科書：なし。 参考文献：授業時間内に適宜指示する。 ■成績評価方法・基準 提出物、授業時間内の発表、演習への参加度から総合的に判断する。 ■準備学習等についての具体的な指示および他の科目との関連 演習に遅刻早退なく出席し、課題をすべて提出する決心をしてから履修希望すること。 課題は多い。 どのような学生でも後半にはいくつかのコツをつかみ、程度の差はあっても上達する。 卒業論文執筆にも役立つはずである。	

担 当 者	田 中 裕 幸
■研究テーマ 英文法を科学する ■講義目的 英語の文法現象を題材にして、普段の外国語学習の対象としてではなく、自然科学の研究対象として言語を分析するという体験をする。未知の分野においてデータを整理し、先学の研究を吟味し、自分の分析を立ててみるという訓練を通して、「論理的な思考が問題を解決する」という感覚をつかんで欲しい。当然ながら、論理的思考能力を養成することにもつながる。 ■各回ごとの授業内容 第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：生成文法における言語研究と統語論の位置付け 第 3--5 回：文法とは？ 第 6--9 回：統語構造とは？ 第 10--15 回：変形規則とは？ 第 16--21 回：意味解釈規則とは？ 第 22--23 回：研究発表 第 24 回：まとめ ■授業方法 教科書を中心に理論の基礎概念を導入していく。事前に教科書を読んで練習問題を考えておく。授業では内容をレビューし、練習問題について議論したり更なるクイズに答えることにより理解を深めていく。秋学期には各自が選んだトピックについて自分なりの分析を試み、最後の 2 回で発表し、議論する。それを基にレポートを執筆する。 ■教科書・参考文献 教科書：阿部潤『問題を通して学ぶ生成文法』（ひつじ書房、2008 年）。 ■成績評価方法・基準 課題提出や授業でのパフォーマンスを含めた平常点とレポートを総合して評価する。 ■準備学習等についての具体的な指示および他の科目との関連 言語学や理工系の知識は必要ないが、言語に対する興味と論理的思考能力が要求される。英語と数学が「好きな」人（「得意」でなくてもいい）に向いている。積み重ねが重要な分野なので、求められた予習と復習をしっかりとやること。	

担 当 者

藤野 真子

■研究テーマ

近代都市としての上海と文化経済

■講義目的

2010 年、上海万博が開幕する。その成否は都市・上海の中国における、ひいては国際社会における将来的な地位を占うものとなろう。19 世紀末に都市としての体裁を整えたこの大都市のこれまで／これからの有り様について、文化・経済を中心に多角的に論じていく。

■各回ごとの授業内容

初回・2 回目はガイダンス、および担当者によるプレゼンテーションのサンプル提示を行う。3 回目以降最終回までは、履修者各自が設定したテーマに関する発表を行い、その後それに基づいた討論を行う。

■授業方法

発表者各自がハンドアウト（様式・分量は後日指定）を準備し、30 分程度のプレゼンテーションを行う。その他の参考資料や映像等を用いてもよい。その後フロアで当該テーマに関する討論を行い、終了後は全員がコメントシートを記入し、提出する。

■教科書・参考文献

教科書：授業開始後適宜指示する。

参考文献：授業開始後適宜指示する。

■成績評価方法・基準

中間・期末レポートおよび平常点（授業への参画度合い、コメントシートの内容など）

■準備学習等についての具体的な指示および他の科目との関連

書籍・新聞・TV・ネットなどあらゆる媒体を通じて上海に関する情報に触れておくこと。

担 当 者	森本 達夫
■研究テーマ 悲劇、喜劇、ドラマ ■講義目的 フィクション（小説、映画、マンガ等）の内容の悲劇性、喜劇性、ドラマ性を考察する。 ■各回ごとの授業内容 まず悲劇、喜劇、ドラマといったジャンルの概念を理解するためにシェークスピア作の『マクベス』、モリエール作の『気で病む男』、そして映画『アマデウス』のビデオを鑑賞し、担当者がその悲劇性、喜劇性、ドラマ性を解説する。以降は受講生は（一人で、またはペアを組んで）自分が興味をもった作品（小説、映画、コミック）についてその悲劇性、喜劇性、ドラマ性について発表をする。発表をしない他の受講生は毎回発表された内容をメモし、次回コメントをつけて提出する。発表者はそれらのコメントを参考にして発表内容を加筆修正し、学期末にそれをレポートとして提出する。 ■授業方法 主にフランスの文学（またはそれを映画化した映画、また劇を録画したビデオの鑑賞）をとりあげながらその「悲劇性/喜劇性/ドラマ性」を考察する。それと並行して、受講生は「自分が興味を持った」小説、劇、映画、また漫才、さらにコミック、アニメなどを持ち寄って発表する。 ■教科書・参考文献 教科書：プリントを配布する。 参考文献：ベルグソン『笑い』（岩波書店）。 ■成績評価方法・基準 出席状況、授業時の発表、年度末のレポート（必須）などを総合して評価する。 ■準備学習等についての具体的な指示および他の科目との関連 発表者は発表内容のレジュメを受講生に配る。	